

## 日経平均の銘柄入れ替え、資生堂を新規採用・東燃上場廃止で

日本経済新聞社は26日、東燃が7月にゼネラル石油と合併し上場廃止になることを受け、日経平均株価などの構成銘柄から除外し、新たな銘柄を補充すると発表した。日経平均には、新しい銘柄入れ替え基準に沿って資生堂を補充する。また日経株価指数300（日経300）にはゼネラル石油、日経500種平均株価（日経500平均）にはティアックを補充する。いずれも7月3日から実施する。

日本経済新聞社は4月24日に日経平均の構成銘柄入れ替えの新しい基準を設定した。今回は企業倒産や合併に伴う銘柄入れ替えの新基準を適用した。医薬品、銀行などの36業種を「技術」「金融」「消費」「素材」など6セクターに分類、補充するのは除外銘柄と同一セクターに属し、最も市場流動性が高い銘柄と定めた。

今回の補充では、資生堂が除外銘柄の東燃と同じ「素材」セクターに属し、その中で最も市場流動性が高かった。市場流動性は売買代金や売買高当たりの価格変動率を尺度にしている。

日経平均の構成銘柄入れ替えは今回のような「臨時入れ替え」と、毎年定期的に市場や産業の構造変化を反映する「定期見直し」の2つのケースがある。